

山麓もよう

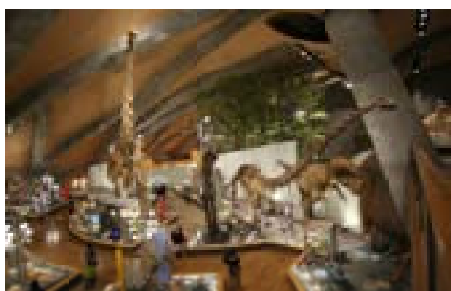
交流の家周辺の体験情報をご紹介します



【群馬県立自然史博物館】

http://www.gmnh.pref.gunma.jp/

地球が誕生してから約46億年。地球や生命の歴史すべてをまとめた「自然史」をテーマにした施設が、群馬県立自然史博物館です。



魅力がたっぷり詰まった常設展示室。

常設展示では、地球の誕生から生命の進化の歴史や群馬県の豊かな自然を紹介しており、全長15mのカマラサウルスの骨格標本や壮大なブナ林のジオラマなどは迫力満点です。特に実物大のティラノサウルスの模型には大人も圧倒されます。しかもこの恐竜、動きます！その他にも透明な床の下に化石の発掘作業の展示がある場所など見どころはたくさんあります。

また、10月4日(土)～11月30日(日)は「闇夜の動物たち」という企画展が行われます。ヒトが寝静まってから始まる夜の世界。不思議でちょっぴりあやしいもう1つの世界をのぞいてみませんか？ (文：落合)

- 所要時間: 交流の家から車で50分 ■TEL: 0274-60-1200
- 住所: 群馬県富岡市上黒岩1674-1 ■休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、年末元旦
- 料金: 一般: 510円(410円)、大学・高専・高校生 300円(240円)、中学生以下: 無料
※企画展開催中は料金が変わります。 ※()内は20名以上の団体料金となります。
- 開館時間: 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

リレーcolumn
すたっぷの目

『身長80cm並の低い目線です』

文: 川崎 有希
【かわさき ゆき】



1児のママである川崎さん。他の職員と見るところが違います

私の目にうつる日々は、慌ただしく暮らす子どもとの毎日で。広くものを見る目は持てませんが、見えるものも出てきたように思います。

子どもの入園先を探し始めました。どんな教育をしているかなど、+αの部分はそれぞれ特色があつていいですが、安全や子どもへの対応は、どこへいれても安心という世の中になってほしいです。

3年前の10月から赤城で働き始めました。今は週2日の勤務で、こういう働き方を受け入れていただき感謝しています。子どものことを考えて、育児&家事バランスをとることが母親にとって最大の課題かも…。「多様な働き方」、増えていくといいな。

赤城を利用された方からのアンケートを集約しています。いただいた声は、職員ちゃんと見えています。少しずつ改善されているところ、ぜひ探してみてください

これから赤城に来る皆様。忘れ物がたくさん見つかるので、帰る前に必ず忘れ物チェックしてくださいね～！

つぶやき田
【テーマ:私の〇〇な秋】

- 「食欲の秋」でしょう！さんまに柿、もひとつ牡蠣。秋は最高です。(杉浦)
- 汗かかなくなったな秋。汗かきな自分は、ハンカチが汗だくにならなくなったら秋を感じます。あつ秋でも汗かか…。(中屋)
- バイクの秋。涼しいこの時期に乗らないと、あつという間に寒くて辛い冬になってしまうので。久しぶりにキャンプツーリングにでも行きたいなあ。(原田)
- ミュージカルな秋。今秋は帝国劇場や新国立劇場等様々な会場で気になるミュージカルが上演されるので観るのが楽しみです。(森田)
- 紅葉&登山の秋。昨年度、赤城山の紅葉に感動しました。今年もたくさん登るぞ！(木暮)
- 行楽の秋に、旅先での味覚の秋。秋はおいしい食材が多いので、出かけるのが楽しみです。(高橋)
- 彼岸花は咲いたか金木犀はまだかいなの秋。桜前線なみに楽しみにしています。(食欲は一年中です)(手島)
- 彩の秋。一本のモミジの樹木に、緑、黄色、赤、オレンジなど、様々な色に溢れ、とても綺麗です。(山田)
- 体カアップの秋。暑い夏が終わりアウトドアに最適な季節。年齢的にも足腰を鍛えることに集中したい。(松崎)
- 子どもと散歩が楽しいけれど、あつちこつちでなかなか帰れないぞ、な秋。18時のお寺の鐘が鳴る～泣。(川崎)
- エビフライな秋。運がいいと森ではエビフライを拾えます。リスが松ぼっくりを食べた跡ですが、見つけられると嬉しくなりますね。(根岸)
- 美術館巡りの秋。秋は街歩きがしやすいので、たくさん美術館を巡りたくなる季節です。(織間)
- 夕焼けの秋。榛名と燃えるような夕焼けを写真に。野望は、紅葉を見ながらの、自転車通勤！？(小川)
- 星空の秋。乾燥してくるこの時期は、きっと満天の星がみられる！という願いを込めて。(落合)
- 空が綺麗な秋。風薫り、風美しく、秋の空。良い季節になりました。(高瀬)
- 朝晩に肌寒さを感じる秋。稲穂が実って、田んぼ一面黄金色に輝く実りの秋、早く新米を食べたいな。(根本)
- アキアカネの秋。夕暮れ時の稲刈りの行われている田んぼ。小学校の頃、家に帰る時の映像です。(新井)
- 「ぐんまちゃん」に癒される秋。ぐんまちゃんも(!?)秋だから太っちゃうのかな？と、心配です。「食欲の秋」は避けたい私。「味覚の秋」くらいに…。(鈴木)
- 食欲の秋。体力をしっかりとつけましょう。残暑を忘れるような日々が続く、秋の気配を感じる今日この頃です。(佐藤)
- 読書の秋。通常の3倍のスピードで読書ができるのは、赤い！赤い！季節だからかなあ(井上)
- 稲穂が揺れる秋。がんばって植えた稲がたわわに実っています。新米と出会うまで、あと少し!!(袋)
- チャレンジの秋です！9月で30歳になったので、禁煙にチャレンジ(〇)/(江原)

次号は、
12月1日発行予定!

「交流の家HP」
「Facebook」で
当所の情報を更新中

体験の風を
おこそう



国立赤城青少年交流の家 http://akagi.niye.go.jp/

TEL:027-289-7224 (9:00~18:00)

FAX:027-289-7226

あかぎ カラゴロリ

検索

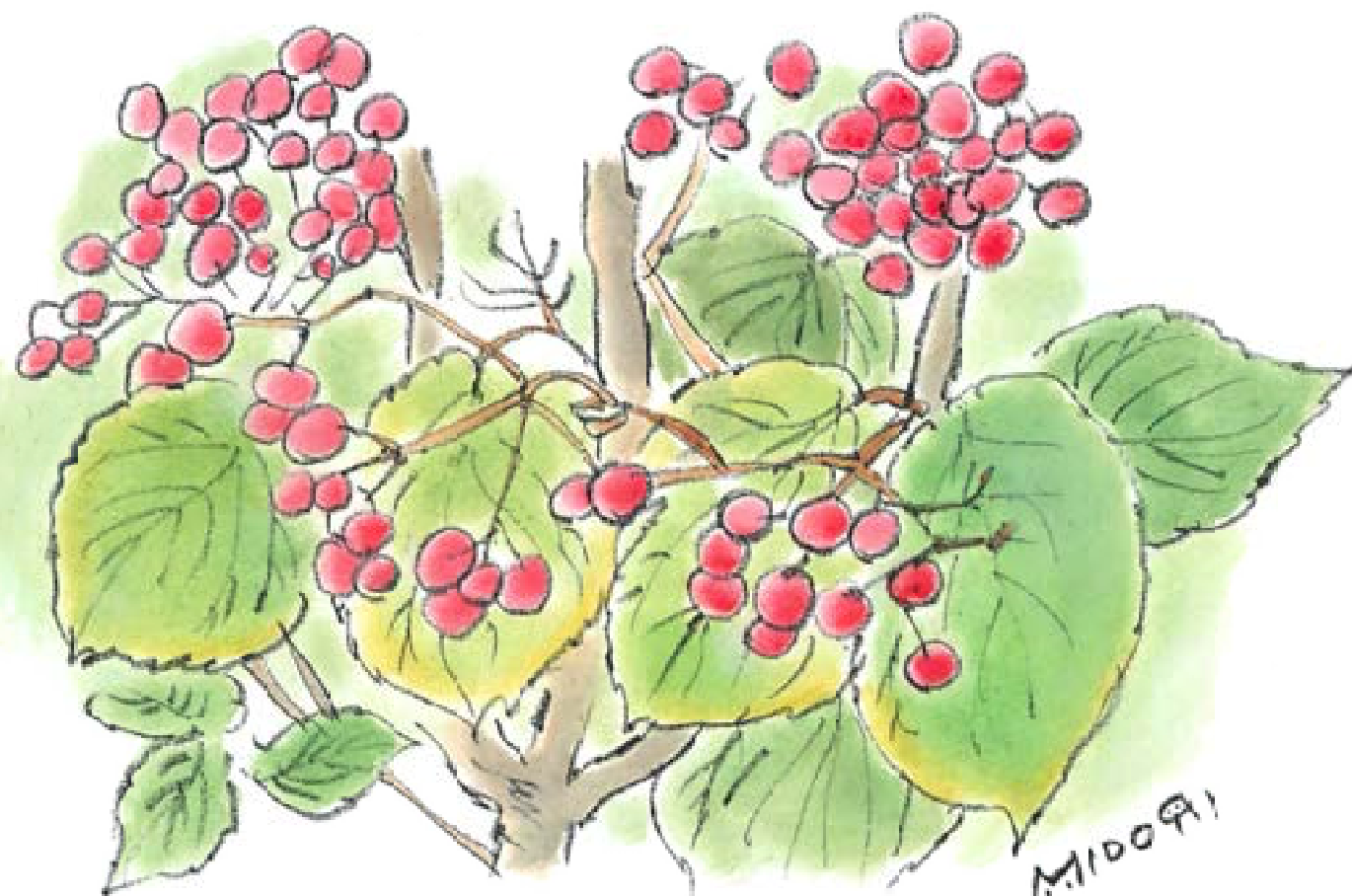
〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27

E-mail:akagi@niye.go.jp

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ

10-11
2014



「ズミの実」

この名前は、樹皮から染料を採取するので「染み」から「ズミ」になったと言われています。煮出すと黄色の染料をとることが出来ます。花もすごく綺麗で、リンゴの花によく似た純白の花が豊かに咲き誇っている様子は、思わず足を止めて見入ってしまいます。赤や黄色に色づく秋の恵みを是非、見つけてみてください。

風のおと

『昭和の子』

今年も暑い夏でした。

負けそうな頃、少し早く秋模様になってくれたことに救われました。涼しくなると夏休みの事業が遥か昔に感じられますが、やはり印象深かったのは、7泊8日の主催事業『赤城やまなみチャレンジキャンプ』の子どもたちの笑顔でした。

このキャンプは、テント生活をしながら、赤城山の7つの頂上をすべて踏破するハードなものです。歩く距離は山道ばかり50kmを超えます。体力の消耗と生活ストレスで、落伍者が何人かは出ると心配した序盤でしたが、転機は中日の4日目でした。この日、早朝登山の後は、比較的ゆったりした予定だったので、子どもたちは体も心もリセットできた感じ

がしました。

テレビやゲーム、携帯電話もない生活にすっかり順応し、4日前に会ったばかりの友だちとは、もう何年も知り合いのようです。1人遊びの道具は何もないので、友だちとよく話し、遊ぶという子ども本来の姿が見られ、東京オリンピックの頃の「昭和」に戻ったようでした。そして、参加者全員が元気に終了することができ、子どもたちにとってこの体験がこれから頑張れる大切な抗体になってくれたと信じています。

所長 杉浦俊之

目指せ!!全員で赤城全山制覇!!

ゴールの時、充実感に満たされた子どもたちの様々な表情がそこにありました。笑顔の子、涙を流す子、座り込んでしまう子、お互いに抱き合って喜ぶ子どもたち。

ゴールまでの過程では、毎日8～9時間の登山からくる疲れやストレス、わがままなどから言い合いをしたり、班の雰囲気が悪くなったりといろいろ大変なことがありましたが、その都度話し合ったり、仲間やスタッフの支えもあり絆を深めることができました。最終日の出発式(決意を述べる会)では1人1人の決意の言葉を充実した表情で述べてくれました。

今年は、昨年より日程を1日増やし、その中初めて行った地蔵岳への早朝登山は、朝3時に起き出発しました。天気にも恵まれ山頂からは、めったに見ることのできない雲海から昇るご来光を見ることができました。どこからともなく「わー！」



ご来光をバックにみんなで記念写真。

「きれい！」などの声が湧き上がり、目の前にある自然の美しさ、神秘さに心奪われました。

大沼でのカッター体験は、参加者やスタッフが声を出し合い1つの目標に向かって艇を進ませることで、後半の登山に向けて全員の気持ちを1つにする良い機会となりました。



H26 国立赤城青少年交流の家 教育事業
赤城やまなみチャレンジキャンプ

この8日間の体験を通し、苦しいこと辛いことを含め様々な体験をした子どもたちは、「赤城全山制覇！」を胸に新たな決意で日常生活へと戻って行きました。きっとこれから訪れる困難なことにも勇気をもって立ち向かってくれると思います。

(文：新井)

やまなみスケジュール



- 1日目 ざわざわ森泊
仲間づくり、装備準備、行動計画づくり
- 2日目 おおさる山乃家泊
滝を目指してロングトレイルスタート!!
- 3日目 前橋市立赤城少年自然の家泊
トレイルの続き～頂上へ！野営準備
- 4日目 前橋市立赤城少年自然の家泊
トレイルの続き～日の出登山、野営準備
- 5日目 前橋市立赤城少年自然の家泊
トレイルの続き～山頂を目指す、野営準備
- 6日目 前橋市立赤城少年自然の家泊
トレイルの続き～最高峰へのチャレンジ
- 7日目 国立赤城青少年交流の家泊
トレイルの続き～全山制覇し、ゴールへ!!
- 8日目 ファイナルパーティー

これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問合せください ⇒TEL027-289-7224(国立赤城青少年交流の家) ☎

■ボランティア養成セミナー

10/25(土)～26(日) 1泊2日
ボランティアに関する知識を学習したり、人間関係を構築するための技術を習得したり、社会に積極的に関わろうとする若い人材を育成します。

■秋のアウトドアフェスタ

10/26(日) 日帰り
「今日がアウトドアデビューの日」をキャッチフレーズに行う、誰でも気軽に参加出来るフェスタです。参加費無料で、火遊び、クラフト、場内ハイクなど沢山の体験ができます。



■スポーツ交流デー(バスケ)

11/1(土)～3(日) 2泊3日
県内外の中学校のバスケ部が集まり、優勝目指して戦います。



■子ども ゆめ基金説明会

11/8(土) 日帰り
近隣の民間団体を対象にした、子ども ゆめ基金の利用について、よりわかりやすく申請ができるようにするための説明会を実施します。

プログラム 紹介!



【ディスクゴルフ】

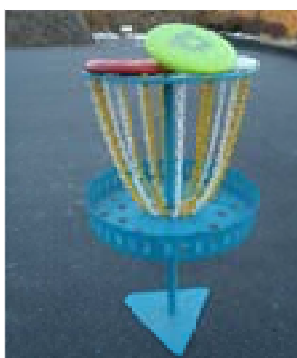
ディスクゴルフとは、ゴルフのボールの代わりにフライングディスク(以下ディスク)を使用し、専用ゴールに、何投で投げ入れることができるかを競うスポーツです。

ルールも簡単で、ひとり1枚のディスクを用意し、数人でグループを組んで数ホールを回ります。1投目はスタート地点から投げ、2投目からはディスクが止まったところから投げます。ディスクは転がしてもOKですし、慣れればディスクをカーブさせて障害物を避けてゴールを狙うなんてこともできます。

交流の家には移動式ゴールが8基あるので、コースも自由に設定できます。

また、ディスクだけの貸し出しもできますので、単純に広場で投げ合うのも気持ちいいですし、最近ではドッチビー(ディスクを使ったドッチボール)用のディスクも貸し出ししています。

一度チャレンジしてみたいかですか? (文：根岸)



フライングディスクの専用ゴール

国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方をご紹介します

この人に会いたい

●国立赤城青少年交流の家 ボランティア

星野 未帆さん ボランティアネーム【みくろん】を
新井 里枝さん ボランティアネーム【りえっぴい】を



子どもたちと関わるのが大好きでボランティアを始めた星野さん。普段は発達に遅れがあったり言葉の遅れがあったりと困難を抱えた子どもたちと一緒に保育士として活動しています。その仕事を始めたきっかけを聞くと、【障がい】をもっと知りたいと様々な施設でボランティアをさせて頂き、この仕事をしたい！と就職を決めたそうです。これからは障がいのある子どもたちとの野外活動にどんどん参加していきたいと笑顔で語ってくれました。

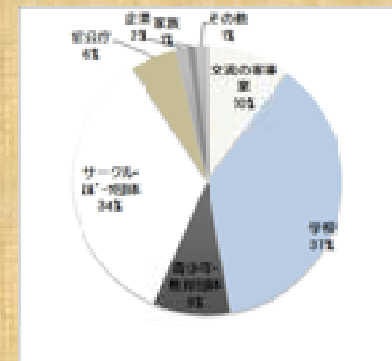
新井さんは未就学の子どもたちに発達支援を行う仕事をしています。主に生活を整えること、はう運動遊びによる療育を中心に日々、子どもたちと過ごしているようです。何故、ボランティアを始めたのかを聞くと、自分のやったことを喜んでくれる子どもたちの様子が嬉しくて、もっとその笑顔を見たい、と思ったことがきっかけになったようです。これからやってみようことを尋ねると、ボランティアや仕事で経験したことや学んだことを活かして自分の子どもを育ててみたいと話してくれました。素敵なお母さんになることは間違いなしです。

赤城で活躍している、笑顔が本当に素敵な星野さんと新井さん。そんな可愛い2人には是非、会いに来てください。(黛)

利用のようす(8～9月)



- 8月の利用者数
…13,565人
117団体
- 9月の利用者数
…12,161人
99団体



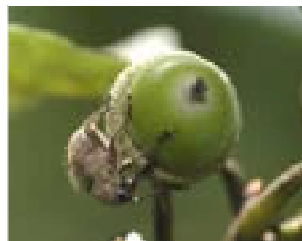
施設周辺の植物など

中秋の名月をご覧になりましたか?

その日、ナイトウォークをしていた小学生は、月明かりで自分の影ができたことに驚いていたそうです。貴重な体験ですね。

さて、交流の家の周辺でも鮮やかな紅葉と虫の合唱が秋を知らせてくれます。

青い空と紅葉に目を向けがちですが、足下に葉と枝の付いたドングリを見たことがありますか? 「ドングリが勝手に落ちてきた～」と子どもたち。



提供:群馬県立ぐんま昆虫の森

犯人は「チョッキリムシ」という虫です。長い口でドングリに穴を開け、産卵した後、茎をまた長い口でちよつきりと切り落とします。かえった幼虫は、そのドングリを食べて成長するそうです。

自然の中には、虫たちの小さな小さな生きている跡がたくさんありますね。(文:小川)

野外活動における・ リスクマネジメント

入門編 第6回

施設をご利用いただいて食事をしようと列を作って待っていると、職員が先に食べていることに気づかれた方もいるのではないかと思います。「なんだ、食べられるのなら早く空けてくれたら良いのに」と思った方もいらっしゃるでしょう。

実は、これは「検食」と言って職員による大切な安全点検なのです。異物が入っていないか、悪くなったものは出していないか等を確認したうえで食堂をオープンします。もちろん食堂スタッフも厳重にチェックを行っているのですが、さらに職員のチェックが入ることで、食中毒などを二重に防止するための大切な確認の機会なのです。

このほかにも、年間数十日の休所日が設けられていますが、これも施設整備のために確保している大切な休所日です。宿泊室や研修室、野外の活動場所の安全点検、エアコンなどの機器のメンテナンス、場内の草刈り等を行っています。利用者のために安全に気持ちよくご利用いただくために、職員自身の手で施設を守っています。(文:高瀬)